

孔子曰く、彼は方且に造物者と人と為りて、天地の一氣に遊ぶ。彼は生を以て付贅疣と為し、死を以て決丸潰癰と為す。夫れ然くの若き者は、又悪くんぞ死と生との先後の在る所を知らんや。異物に仮りて、同体に託し、其の肝胆を忘れ、その耳目を遺れ、終始を反復して端倪を知らず、茫然として塵垢の外に彷徨し、無為の業に逍遙す。彼又悪くんぞ能く憤憤然として世俗の礼を為し、以て衆人の耳目に覩さんやと。

【大体の意味内容】

孔子は言った、「彼らはちやうど造物者と仲間になつて、天地開闢以前の一氣の境地に遊んでゐるのだ。(世界が整然とした宇宙になる前の、ぐちゃぐちゃの混沌に戯れてゐると言つていい)。彼らは「生」を“こぶ”や“いぼ”の様な余計なものとし、「死」を“かさ”や“はれ物”が潰れた清々しいものとみなしている。いったいこのような人たちが、どうして死と生との後先がどのようであるか、などと考へたりしようか。我々人間とは、様々な異物を借り集めて、一つの身体とみなしているだけの、仮初の存在に過ぎない。だから普段は肝臓や胆嚢の様な内臓のことを忘れ、目や耳などの外形を忘れていて、至極当然なのだ。生き生き生きて、生の始めを知らず、死に死に死にて、死の終わりを知らない。何事にもとらわれず茫々然として俗塵にまみれたこの世の外を彷徨う。卑俗な人為を離れて無為自然に逍遙して楽しむのみなのだ。こてこてと飾り立てたような礼儀作法を莊重に執り行い、世間の耳目を引くように振る舞うことなど、彼らには「やっつらんねえよ」と

いうことなのだろう。

。